

水

ぼくは、サッカーのクラブチームに入っている。最近はずごくいそがしくて、休みもなくいろんなところへ試合へ行っている。各地のトイレに行くと、毎回目につくものがある。それは、「水を大切に」などの内容が書かれたはり紙だ。小学校低学年のころは、気にもとめなかったが、中学校になってはり紙が目につくようになった。小学校高学年のころも少しは気づいていたが、そこまで何も思わずに、「はり紙してある。」ぐらいの気持ちだった。

ついこの前も、サッカーの友達と二人でトイレへ行った。そこにもはり紙がはってあった。内容は、「トイレの水だからといってむだにしないといけない」というものだった。「なあ、このはり紙ってだれがはってんのかな。」

天理市福住中学校 一年 乾谷 大志

とぼくは友達に言った。友達は、「そんなん知らんわ。」

と、どうでもいいような顔で答えた。ぼくは、「まあ確かに知らんと思うけど、何か思わん？」と返した。こうやってしゃべっているところへ、二人の友達がきた。この友達にも同じ話をする、一人の友達は、「どうでもええ。」

と言ったが、もう一人の友達は、ぼくと同じようなことを言った。さらにどうでもいいと言った友達は、

「水なんかなんぼでもあんねんから。ちよつとぐらい多く使ってもあんまり変わらへんて。」と言った。ぼくは、はり紙などを見て、何か思う人と思わない人の差を感じた。

こんなことを言っているけれど、はり紙は、水を大切にしよう、無だに遣わないようにし

ようとする人の努力だ。友達が言っていたことは、まちがってる。それは、たまたま日本は水があるだけで、今世界では、水が飲めなくて困っている人や、水が足りなくて困っている人が数えきれないほどいる。もし水の無だ遣いを続けられれば、日本もいつか、そのようなことになるかもしれない。このことを思っはり紙など努力をしていてくれる人がいる。はり紙があるということとは、水を無だに遣って、大切に使用しない人がたくさんいるから、はられるのだ。全員が大切に使う人だったら、はられない、大切に使用しない人がずっといる限りはられ続ける。だから、はり紙がはられなくなってもいいぐらいにみんなが水を大切に使用しなければならぬ。しかしすぐには変われない。そのためにも一人一人が水への意識を変えることが大切だ。

身近にある、人の努力を忘れないでほしいと思う。

水を無だに遣っている人がいたら、注意してあげたり、家庭でも親が子どもに水の使用方法を教えていくべきだとぼくは思う。そして、自分も見直して、どうすべきか考えなければ、

いけない。
いつかはり紙をしなくてもいい国になってほしいと思う。